

開催要項

「重いハンディキャップのある子どもたちの テクノロジーを活用した教育&学習セミナーin 盛岡」

1. 概要

どんなに障害が重くこれまで意思の表出が難しいとされていた人でも、身近になったテクノロジーを活用することで表出が可能となり、周囲とコミュニケーションが図れるようになります。「視線入力」等の最新のテクノロジーを使いこなせば、大きく生活の質を豊かに変えることができます。日頃、視線入力やスイッチ操作の技術を広め、子どもたちや周囲の人たちを笑顔にしているエキスパート3名によるセミナーを開催します。

午前は講演、午後は講演の補足説明と質疑応答を行います。

2. 日時・場所

2020年3月29日(日) 9:30~15:10

アイーナ いわて県民情報交流センター 7階 701・703

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号

3. 対象者

障害者支援に関心のある方 ※所属不問

4. 定員 48名

5. 講師

氏名	所属	プロフィール
伊藤史人	島根大学総合理工学部 助教	2015年に開発した視線入力訓練ソフト「EyeMoT」は、全国の支援学校等の約4割で導入されている。EyeMoTの活用により、重度障害児の教育&療育スタイルに大きな変革をもたらされた。特別支援教育におけるテクノロジー活用の講演活動等を行う。バリアフリーマップアプリ「WheeLog!」最高技術責任者。017年日本賞クリエイティブ・フロンティア部門最優秀賞、2018年島根大学研究表彰および優良教育実践表彰を受賞等受賞多数。
福島勇	福岡市立今津特別支援学校 教諭	1989年以降、勤務校において重度・重複障害を含む肢体不自由児へのAAC (Augmentative and Alternative Communication = 拡大・代替コミュニケーション)およびAT(Assistive Technology = 支援技術)のコーディネートを担当するとともに、厚生労働省心身障害研究および独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の研究協力員を務める。2015年文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞。
引地晶久 (オンライン登壇)	西部島根医療福祉センター 作業療法士	島根県の支援者へのIT支援の指導を行うだけでなく、全国の病院での研修会講師や家庭への訪問を行い、重症心身障害へのテクノロジー活用の普及活動を行っている。2019年、読売療育賞 最優秀賞を受賞。
金森克浩 (オンライン登壇)	日本福祉大学スポーツ科学部 教授	2008年から9年間特総研において教育の情報化に関する手引やデジタル教科書、ICT活用に関するリーフレット作成などに携わってきた。また、【kintaのブログ】で特別支援教育におけるATやICTの活用について様々な情報を日々発信している。

6. タイムテーブル

09:00~09:15 受付
09:20~09:30 オープニング
09:30~10:40 講演① 福島
10:50~12:00 講演② 伊藤
12:30~13:00 ランション講演 金森
13:00~13:15 講演①・講演②・ランション講演の質疑
13:20~14:00 講演③ 引地
14:00~14:30 全体討論
14:30~14:40 クロージング
終了後、30分ほど体験会

7. 参加費

一般 2,000 円 学生 1,000 円

障害当事者につき介助者 1 名まで無料／呼吸器ユーザーの介助者は 2 名まで無料
付添者は高校生まで無料

8. 申込み

DoorKeeper からお申し込みください

<https://bit.ly/380Jcjm>



9. 参加にあたって

新型コロナウイルスをはじめとする感染予防および拡散防止のため、参加者のみなさまには以下のご協力をお願いいたします。

- ・風邪のような症状のある方は来場をお控えください
- ・会場には消毒液をご用意します。どうぞご利用ください
- ・セミナー中に体調が悪化したり、気分が優れなくなった場合は、近くのスタッフまでお申し出ください

10. 問い合わせ

E-mail ictiwate2017@gmail.com

菊池直実 宛（岩手県立一関清明支援学校）

主 催 島根大学ヒューマンインターフェース研究室
後 援 ぽけっとの会 重い障害の子供たち・人たちの地域生活を豊かにする会
ぽっぽの会 重い障がいがある在宅者の生活を豊かにする会
岩手県重症心身障害児（者）を守る会

第1部講演概要

講師1：伊藤 史人（島根大学・助教）

「けっこう重い知的障害のある児童への視線入力によるアプローチ」

ローコスト視線入力装置の登場により、誰もが視線入力環境を手に入れることができました。視線入力は文字入力の効率化がすべてではありません。比較的重い知的障害のある児童へのアプローチとして、極めて有効なのです。認知機能により、スイッチやタブレットが使えない児童でも、視線入力によりアプローチが大幅に増えたのです。本セミナーでは、視線入力訓練アプリ EyeMoT 等を活用した方法を、事例とデモにより具体的に紹介いたします。

講師2：福島 勇（福岡市立今津特別支援学校・教諭）

「デキルことを活かしてコミュニケーションを広げよう」

肢体不自由の程度が重度な子どもたちは、遊びやコミュニケーション、学習をする上での困難さがあります。何度やってもうまくいかない...そんな日々を繰り返すと「どうせ私がやってもデキナイや」という諦めの気持ちが生じ、受動的・消極的になってきます。また、周囲の大人も「この子は肢体不自由が重度だから〇〇デキナイ」と評価しがちです。そういう見方・捉え方で周囲の大人が関わっているのは、彼らの「デキル力」を見過ごす危険性があると思っています。もちろん、何も手立てが無ければ彼らは「〇〇デキナイ」まま...

でも、現代にはテクノロジーがあります。なかでも ICT（Information and Communication Technology = 情報通信技術）を含めた AT（Assistive Technology = 支援技術）は、彼らの「デキル力」を活かす手立てになります。スイッチや iPad、視線入力などの支援機器を活用した事例を通して、彼らの自立と社会参加について考えてみましょう。

講師3：引地 晶久（西部島根医療福祉センター・作業療法士）

「テクノロジーの活用で「できる」「わかる」を見つけよう！」

重度の身体障害と重度の知的障害を併せ持つ重症心身障害児（者）のリハビリテーションは“命を守る”ことが最優先されています。しかし、命を守ったその先の“生活”は、“未来”はどこまでアプローチされているのでしょうか？どんなに重度であってもテクノロジーの活用で「できる」ことが見つかります。外見からでは分かりにくいこと、今まで推測しかできなかったことが、テクノロジーの活用で「わかる」きっかけを作れます。今回は視線入力装置の活用を中心に、重症心身障害児（者）の可能性をひろげるヒントを一緒に見つけていきたいと思います。

講師4：金森 克浩（日本福祉大学スポーツ科学部・教授）

「すぐには役立たないかもしれないけど面白そうな支援技術」

講師紹介

講師 1：伊藤 史人（島根大学・助教）

2015 年に開発した視線入力訓練ソフト「EyeMoT」は、全国の支援学校等の約 4 割で導入されている。EyeMoT の活用により、重度障害児の教育 & 療育スタイルに大きな変革がもたらされた。特別支援教育におけるテクノロジー活用の講演活動等を行う。バリアフリーマップアプリ「WheeLog!」最高技術責任者。受賞多数。

2019 年 7 月	令和元年度島根大学総合理工学部機械・電気電子工学科 特別賞
2019 年 3 月	総務省 ICT 地域活性化大賞 2019 優秀賞受賞
2019 年 3 月	WSA SMART SETTLEMENTS & URBANIZATION グローバルチャンピオン
2018 年 9 月	平成 30 年度島根大学研究表彰 および 優良教育実践表彰
2018 年 3 月	東京都オープンデータコンテスト 入賞 & 特別賞
2018 年 2 月	Zero Project Award 2018 (Innovative Practice 2018 on Accessibility)
2017 年 10 月	第 44 回 NHK 日本賞 2017 クリエイティブ・フロンティア部門 最優秀賞
2017 年 9 月	第 16 回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞
2015 年 12 月	HCG シンポジウム 2015 オーガナイズドセッション賞 / インタラクティブセッション賞
2015 年 3 月	Google インパクトチャレンジ 2014/2015 グランプリ賞

講師 2：福島 勇（福岡市立今津特別支援学校・教諭）

1989 年以降、勤務校において重度・重複障害を含む肢体不自由児への AAC（Augmentative and Alternative Communication = 拡大・代替コミュニケーション）および AT（Assistive Technology = 支援技術）のコーディネートを担当するとともに、厚生労働省心身障害研究および独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の研究協力員を務める。

1999 年 1 月～3 月 文部省初等中等教育局特殊教育課による「重複障害教育海外派遣研修事業」にてアメリカ合衆国を約 3 ヶ月間視察
2014 年 11 月 福岡市教育委員会表彰を受賞
2015 年 1 月 文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞

講師 3：引地 晶久（西部島根医療福祉センター・作業療法士）

重症心身障害児（者）の入所施設に勤務し、様々なテクノロジーを活用し、重症心身障害の可能性を引き出す作業療法を行っている。島根県作業療法士会理事として島根県の支援者への IT 支援の指導を行うだけでなく、全国の病院での研修会や、家庭への訪問を行い、重症心身障害へのテクノロジー活用の普及活動を行っている。

2019 年 10 月 第 15 回読売療育賞 最優秀賞
（第 30 回重症心身障害療育学会学術集会発表演題「横地分類 A1 の重症心身障害児（者）の潜在能力を視線入力装置で探る」）

講師 4：金森 克浩（日本福祉大学スポーツ科学部・教授）

2008 年から 9 年間特総研において教育の情報化に関する手引やデジタル教科書、ICT 活用に関するリーフレット作成などに携わってきた。また、【kinta のブログ】で特別支援教育における AT や ICT の活用について様々な情報を日々発信している。

特別支援教育士スーパーバイザー。福祉情報技術コーディネーター 1 級。
文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会構成員。
文部科学省「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」委員。
文部科学省「障害のある児童生徒の教材の充実に関する検討会」委員。
NHK for School「ストレッチマン・ゴールド」番組委員。